

ちょっとひと工夫

—家庭学習改善のための情報—

家庭学習通信 No.23

平成 28 年 12 月発行

長野県教育委員会

学力向上推進チーム

Gチーム

PDCAサイクルを取り入れた家庭学習

Gチーム研究班 高橋 廣貴（総合教育センター専門主事）

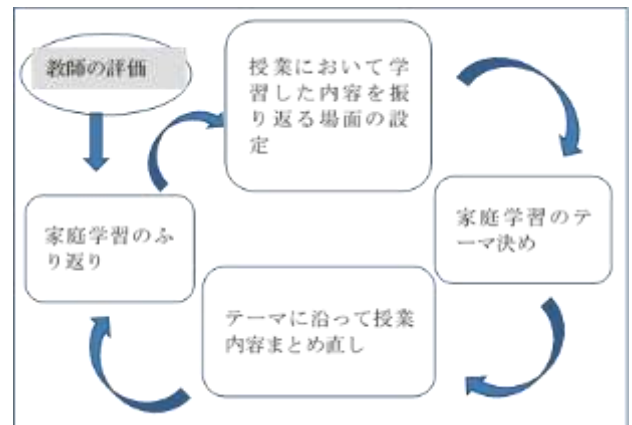
小谷村立小谷中学校の数学科では、やらされる家庭学習からの脱却を目指し、今年度からPDCAサイクルを取り入れた家庭学習を行っています（右図）。

授業が終わり、教科担任は家庭学習用のプリントを1枚配ります。生徒は、そのプリントに本時の授業に関わる家庭学習の内容を記入します①。内容の設定が難しい生徒には、教師が本時に関する副教材のページを示すような支援を行います。ときには、授業で扱えなかった発展的な問題をやってみるよう促すこともあります。決して強制はしません。あくまでも、生徒の自主性を尊重します。

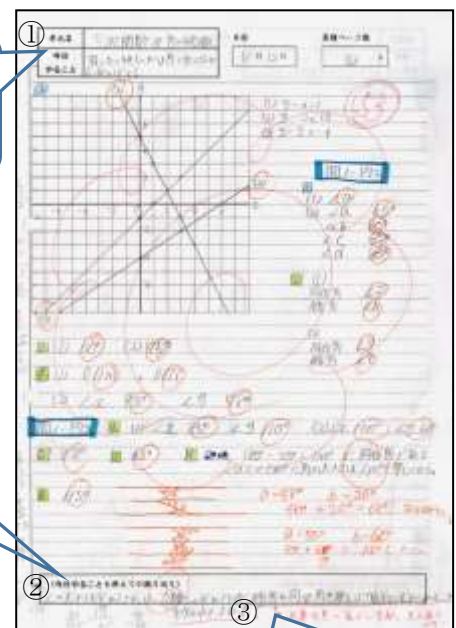
家庭学習を行った後に、振り返りを書きます②。

翌日そこに教科担任がコメントを書き、更なる意欲の向上につなげます③。

開始当初、家庭学習の振り返りには、「わかった」「よくできた」などの表現が目立っていましたが、「代入して確かめることもできたし、表の書き方も復習して、このページの問題は間違えずに解けたのでよかった」と、記述内容に質的な高まりが見られるようになりました。



〈家庭学習用のプリント〉

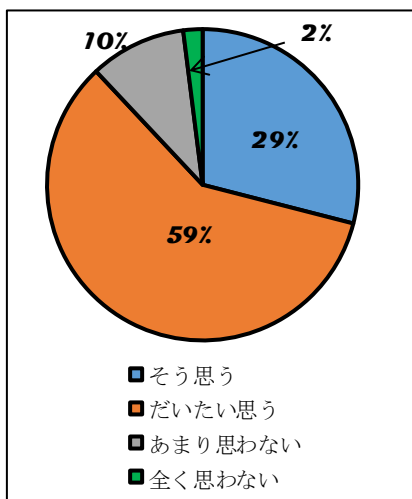


① 『習ったことを思い出してしっかりやる。』

② 『xの大きさを求めるときに、けっこう難しく求めていたけど、錯角や同位角を使えば簡単に求められることがわかった。』

③ 『大事なことに気がついたね。その通りです。』

（教師コメント）



小谷中学校では、年2回家庭学習についてのアンケートを行い、生徒の意識の実態を把握しています。左のグラフは「あなたにとって家庭学習は自分のためになっていますか」という質問に対する回答です。肯定的なところが88%でした。

やらされる家庭学習ではなく、自ら進んで行う家庭学習の1つの取組として、小谷中学校の取組を参考にしてみてはいかがでしょうか。